

令和5年度（2023年度）第1回東海市環境審議会会議録

1 会議名

令和5年度（2023年度）第1回東海市環境審議会

2 日時

令和5年（2023年）7月25日（火）午後1時30分～2時15分

3 場所

東海市役所 302会議室

4 出席者

(1) 環境審議会委員（15名）

福井弘道、大橋直子、久野辰男、毛利まり子、北村秀行、佐藤直子、大木孝二、
佐藤雅之、久野兼幸、青木均、山口純、澤木眞、渡邊省吾、桑山幹根、寺島賀子

(2) 市長

(3) 事務局

小笠原環境経済部長、河田環境経済部次長兼生活環境課長、石松ゼロカーボン
戦略室長、久野ゼロカーボン戦略室統括主任、田中生活環境課主任、中平生活環
境課主事

5 欠席者（環境審議会委員4名）

越智亮、近藤之、加古雅士、荒谷芳興

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴者

なし

8 会議内容

(1) 東海市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の答申について 事務局より、資料に基づき説明を行った。質疑等は以下の通り。

（澤木委員）

農地については1ヘクタールあたりどれぐらいの削減量で計算されているの
か。

(事務局)

農地を含めた緑地の吸収源としての削減量については、環境省の策定マニュアルに基づき、森林は2.65t-CO₂/年、都市緑化は1.54t-CO₂/年で算定している。

(寺島委員)

資料1-1の3ページ、表3中4-1.に3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進とあるが、これからは5Rや7Rに取り組んでいるところも多いと思うが、どのように考えているか。

(事務局)

リサイクル等に関しては清掃センターで別の計画があるため、そこに5R等が追加されるようなことがあれば、見直しや改訂のタイミングで地球温暖化対策実行計画(区域施策編)も合わせていくことになる。

(北村委員)

日本全体で森林が放置林となり、間伐されないままCO₂をほぼ吸収しない木ばかりになっている状況であるが、そういった森林を抱える自治体の多くは過疎等で悩んでいると思う。東海市が、過疎が進み放置林を抱えている自治体と連携し、森を活性化させるなど、市の中だけではなく外にも目を向けた新しい仕組み作りが必要ではないか。

(事務局)

東海市は吸収源である緑が少ないと認識をしている。そのようなところで排出されたCO₂は離れた地で吸収されることとなる。日本製鉄でもブルーカーボン(海の海藻によるCO₂の吸収)の研究を行っており、そのような事も含め、広域で行えることも今後検討していきたい。

大府市でも水源地と協定を結んでおり、そういった取り組みを今度は木材を使うというところで協定を結び、積極的に国産の木材を使うということも行われている。東海市でも公共施設の新築・増築で多くの木材をしているため、今後、国産の木材を積極的に活用していくことで、間接的ではあるが山間部との関わりを大切にしていきたい。

答申案についての意見等はなく、会長から市長へ答申書が渡された。

(2) 報告事項

令和4年度（2022年度）大気測定結果について

事務局より、資料に基づき説明を行った。質疑等は以下の通り。

（澤木委員）

光化学オキシダントについて、愛知県全域で環境基準を達成していないとのことだが、いつから環境基準を達成できていないのか。

（事務局）

ここ数年は県内ではどこも達成できていない。全国的にも99%以上が達成できていないと聞いている。

(3) その他

特になし。